

ワンオペ・ハイブリッド 授業について

2023年度授業担当教員懇談会

担当：得津晶

2023年9月1日（金）18時から

@一橋大学千代田キャンパス第1講義室（602）

ビジネスロー専攻とは

ビジネスローに特化した社会人のための大学
キャンパスは都心の高層ビル

- 20年に及ぶビジネスローのリカレント教育の実績
 - 都心の千代田キャンパスで開講
 - 平日夜間（一部土曜日）のプログラム
- 研究と実務の架橋
 - 実践的な指導・カリキュラム
 - 第一線で活躍する弁護士などの実務家教員
- グローバル化への対応
 - GBL(Global Business Law)プログラム
 - 英語の講義科目と日本語の講義の組合せ



ビジネスロー専攻の学生数

- 募集定員（1学年）
 - 修士課程35名
 - 博士後期課程11名（2022年度まで12名）
- 2023年度在学学生数

修士課程：76名
（休学者除く）
単位履修はMI中心

	オリジナル	知財戦略	情報法	GBL	計
修士1年生	12名	6名	6名	6名	30名
修士2年生	16名	11名	5名	7名	39名
原級留置	2名	3名	1名	1名	7名
計	30名	20名	12名	14名	76名

博士課程：合計48名（休学者含む）—必要単位6単位のみ

博士1年生	博士2年生	博士3年生	博士4年以上	合計
9名	4名	5名	30名	48名

HBLを巡るハイブリッド授業の概況

- 2020年3月 新型コロナウイルス感染拡大開始
- 2020年4月 緊急事態宣言→2020年前期**完全オンライン授業**

2020後期～2021後期途中まで**オンライン授業**

- 2021年後期途中から一部授業で対面式授業復活（**ハイブリッド**）
その他の授業は完全オンラインのまま
- 2022年5月から対面式授業復活
一部授業（受講生数の多い授業・講師海外在住の授業）は**オンライン**
持病等の理由で対面式授業を受講できない学生への継続的学修への配慮（**ハイブリッド授業**）
- 2023年9月から教室人数規制撤廃
継続的学修への配慮は継続（最低要求は資料掲示にとどめる＝**ハイブリッドは完全に任意**）



アフター・コロナへの復帰

今後の課題：オンライン・ハイブリッド授業の遺産の活用
「義務」から「効果的な活用」へ

HBL学生のニーズとHBLの対応

- 忙しい「社会人学生」

根強い「オンライン要望」（ハイブリッド要望）の声

- 急に入る出張
- 仕事の都合で移動時間がとれない（株主総会前など）
- 高い向学心（単位とは関係なくできるだけ授業を受けたい）



- HBLの授業は原則「対面式」

- 学生と教員のインタラクティブな少人数教育
オンライン／ハイブリッドはインタラクティブな教育（特に演習）に不向き
- 学生同士の学びあい効果（peer-effect）
社会人大学院において社会人学生同士による会社外・他業種との接点は新たな価値の創出・イノベーションにつながる（政府の成長戦略）
- スタッフ不足（共同研究室にスタッフは1名のみ）

ハイブリッド授業に必要な準備

必要なもの

- 一橋大学IDアカウント・Googleアカウント
- ZOOMアカウント
無料アカウントは40分の時間制限／非常勤講師以上には一橋大学からZOOM有料アカウント支給（一橋IDによるGoogleアカウントで管理）
- ノートPC
一橋大学の有線LANに接続するため一橋大学貸出のPCをご利用いただきます
- (マイク・スピーカー)
一部教室では不要

あるとよいもの

- YoutubeがつかえるGoogleアカウント
一橋から支給されるGoogle IDはYoutubeとmapがつかえない仕様になっています
- カメラ（ノートPC備え付けのカメラでは画角が狭い）
共同研究室に数台Owl所蔵

ハイブリッド配信に適した教室

- 6階第1講義室
- 6階第2講義室
- 5階第5・第6講義室
マイク・スピーカーが教室備え付けの設備で対応可能（スピーカー持ち込み不要）

ワンオペ・ハイブリッド授業の進め方

- ① 授業開始前の準備
- ② 授業開始時の作業
- ③ 授業中の作業
- ④ (授業後の作業—録画した場合のみ)

※授業動画を録画しオンデマンド配信するかどうかで作業レベルに差異

録画なし・リアルタイム配信のみ—簡単

授業動画録画・オンデマンド配信—作業がより複雑に

①授業開始前の準備

- 各自のPCでZOOMを立ち上げる
- ZOOMミーティンググループの設定
 - 日時・ミーティング名を設定
 - 13回分（曜日指定—祝日休構・年末年始分も含まれて14回以上となることも）まとめて設定することも可能
- 設定したミーティンググループを学生に通知
 - Google Classroomで学生に通知

②授業開始時の作業

- ノートPC（共同研究室貸出）を用意
 - HDMIケーブルを接続（動画・音声を教室内のスライド）
 - 有線LANを接続（インターネットに接続）
学内wifi・eduroamでは不安定
 - （カメラ（Owlなど）と接続）
- PCを立ち上げる
- ZOOMを立ち上げる
 - ZOOMアカウント・パスワードを入力
 - 授業用に設定したミーティンググループのリンクをクリック
 - 「スピーカー&マイクをテストする」で確認

③授業中の作業

• 授業開始時

そのまま授業を開始する・なるべくマイクを利用する
ミュートの解除・ビデオの開始を忘れずに

【応用編】録画する場合：ZOOMの「クラウドにレコーディング」

• パワーポイントを利用する場合（今日の最難ポイント→次スライド）

パワーポイントのスライドショー画面の表示形式でやり方が異なります

1. 「**発表者ツール**」が表示される場合

2. スライドショー画面（**全画面表示**）がPCディスプレイに表示される場合

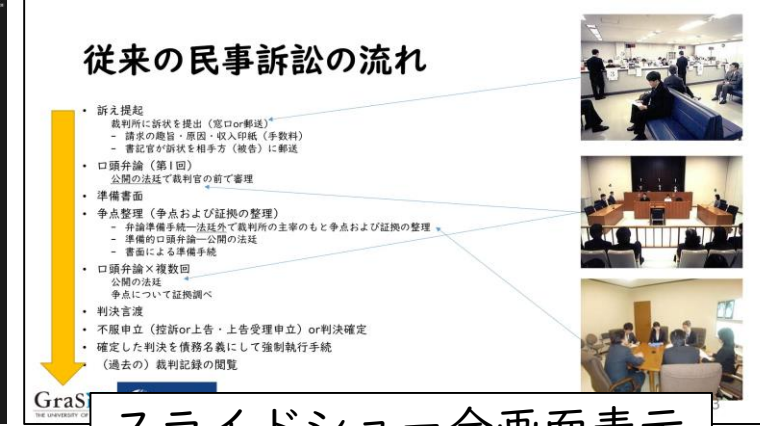
• 授業終了時

ZOOMの右下「終了」で「全員に対してミーティングを終了」で退出

- 先に「レコーディングを終了」して録画を終了し、オフレコでオンライン参加の学生と会話することも可能



発表者ツール



スライドショー全画面表示

③授業中の作業 パワーポイントを利用する場合

スライドショー画面の表示形式で異なる方法

1. 「発表者ツール」が表示される場合

- ① パワーポイントで先にスライドショーを開始
- ② 左上の「タスクバー表示」をクリック、タスクバーからZOOMを選択
- ③ ZOOMの「画面共有」をクリック
- ④ 共有するウィンドウまたはアプリケーションの選択でパワーポイントの普通表示ではなくスライドショー画面を選択



2. スライドショー画面（全画面表示）がPCに表示

- ① スライドショー前の状態ではZOOMの「画面共有」をクリック
- ② 共有するウィンドウまたはアプリケーションの選択でパワーポイントを選択
- ③ パワーポイントでスライドショーを開始



④授業終了後の作業

—録画動画のオンデマンド配信

- いくつかの方法（簡単→難 の順）

1. ZOOMクラウドをそのまま学生が閲覧（一番簡単）

※注意：ZOOMのクラウドの容量は非常に小さいので**1～2週間以内の削除**をお願いします。クラウドの容量が圧迫されていると他の方がクラウド保存での動画録画ができなくなる（途中で勝手にミュート・カメラオフになるなど）おそれがあります

2. Google Classroomにアップロードする

3. Youtubeにアップロード【応用】

④授業終了後の作業

—録画動画のオンデマンド配信

1. ZOOMクラウドをそのまま学生が閲覧（一番簡単）

「クラウド録画」後、動画が利用可能になるまで時間がかかる・利用可能になると電子メールが届く

「クラウドレコーディング・・・が利用可能になりました」というメール

他の人々と共有するためのリンクとパスコードが記載される

このリンクとパスコードをGoogle Classroomなどで学生に伝える

※注意：ZOOMのクラウドの容量は非常に小さいので**1～2週間以内の削除**をお願いします。クラウドの容量が圧迫されていると他の方がクラウド保存での動画録画ができなくなる（途中で勝手にミュート・カメラオフになるなど）おそれがあります

④授業終了後の作業 —録画動画のオンデマンド配信

2. Google Classroomにアップロードする

- ① ZOOMクラウド録画後の動画が利用可能になった旨の電子メール到着後、「詳細を見る」をクリック
- ② ブラウザでZOOMのウェブサイトにとぶ。サインイン（ZOOM赤生トンIDとパスワードを入力）をする。
- ③ ZOOMウェブサイトの「レコーディング」ページで動画が表示される。この動画をダウンロードする（動画ファイルはデータ量が大きいためPCの空き領域に注意）
- ④ ダウンロードした動画を担当授業のGoogle Classroomの授業タグ、「資料」作成でアップロードする

※注意：一橋大学全学のGoogle Drive容量にも限度があるためターム終了後に授業動画は共同研究室により削除することになっています
(実際には授業終了後1～2年後に削除作業)

④授業終了後の作業 —録画動画のオンデマンド配信

3. Youtubeにアップロード【応用】

- ① ZOOMクラウド録画後の動画が利用可能になった旨の電子メール到着後、「詳細を見る」をクリックし、録画動画をダウンロード。
- ② アップロード用のGoogleアカウントでYoutubeのページを開く（一橋大学GoogleアカウントはYoutube利用不可）。Youtubeの右上のビデオカメラに+のタグをクリックして「動画をアップロード」を選択。ここでZOOMからダウンロードした動画をアップロードする。
- ③ 動画のURLを学生に送付

※注意：双方向授業で学生の発言シーンなどが多く映っている授業動画を「公開」するのは控えてください。「**限定公開**」（どのアカウントからも閲覧できず検索では引っかけからずURLを知っている人だけが閲覧可能）をお勧めします。

Youtubeのメリット：Googleアカウントの容量設定にひっかからないため無期限に無料で保存可能
(ただし閲覧時にCMなどデメリットも)

いくつかのヒント

- 最初から「完璧」を求めない・最後まで「完璧」を求めない
国際シンポジウムでのプロによる動画配信一数十万円



HBL年間授業料50万円弱・スタッフ不足による「ワンオペ」
→品質に違いがあって当たり前
極論すると...

ハイブリッド授業は授業料の対価に含まれていない
「ぜいたく品」(余計なサービス)

最初はできることからゆっくり一歩ずつ(「音声」だけでも)

担当講師の例: 2020年4月8日「授業練習会」でオンライン授業開始(当時は録画せず)

→2020年10月7日: ハイブリッド授業を正規授業[LS問題演習]で導入開始。15名中2名がオンライン受講・2回は録画のみでリアルタイム対話なし・板書が映らず

→3回目からカメラ・スピーカー新規購入・双方向授業実施可能に

- あくまで「対面式授業」が原則—対面参加の学生を大事に
- 学生同士のグループディスカッションを含む授業ではブレイクアウトルームを利用してオンライン参加者同士のコミュニケーション(アウトプット教育)・交流の機会確保をはかる

ハイブリッド授業を始める前に

ハイブリッド授業が常に「正しい」とは限らない

- ハイブリッド授業の利点

- 忙しい社会人学生の授業参加機会の拡大
- (授業録画があれば) 復習の便宜



- ハイブリッド授業の欠点

- 演習などインタラクティブ教育に不向き
- ハイブリッド対応に注意を奪われ授業自体(準備・講義)の質低下
- 学生の対面式参加が減る(ハイブリッドがないなら頑張っ^て対面式に参加した学生がオンラインを選択するように)
- 学生同士の交流機会・peer effectの喪失

⇒ ご担当いただいている授業の特質(+教員負担)を考えて「選択」

ご清聴ありがとうございました

グループディスカッション

(授業担当教員の先生方とHBL専任教員とで意見交換)

- ご担当の授業はハイブリッド展開に適していると思いますか？
- 仮にハイブリッド授業をなさるならどのようなことに気を付けるとより良い教育効果が実現できると思いますか？